



中学校保健体育科「剣道」授業において「剣道形」導入の可能性について ～主体的・対話的な学び,安全教育を意識して～

○太田順康（大阪教育大学）・由留木俊之（岸和田市立山直中学校）
金森昭憲（豊中市立庄内小学校）・石川美久（大阪教育大学）

緒 言

学習指導要領改訂 ⇒ 中学校、2021年度から全面实施

<改定のポイント・学習指導要領改訂の背景>

○新学習指導要領で育成を目指す**資質・能力**の三つの柱

（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」）

○カリキュラム・マネジメント

○主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）

<保健体育 改訂のポイント>

「武道」について例示の9種目などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることが明記された。

<教育内容の主な改善事項／その他の重要事項>

☆言語能力の確実な育成

☆道徳教育の充実

○外国語教育の充実

☆主権者教育、消費者教育、防災・**安全教育などの充実**

○部活動

☆伝統や文化に関する教育の充実

○体験活動の充実

○初等中等教育の一貫した学びの充実

○情報活用能力（プログラミング教育を含む）

○子供たちの発達の支援

（※ ☆は、筆者が考える教科の枠を超え「武道」「形」で育成できであろう資質）

中学校学習指導要領 解説 保健体育編

「基本動作や基本となる技を習得する学習においては、「形」の取扱いを工夫することも効果的である。」

「形」をどのように取扱うのかは武道授業を考える上でも検討を要する。

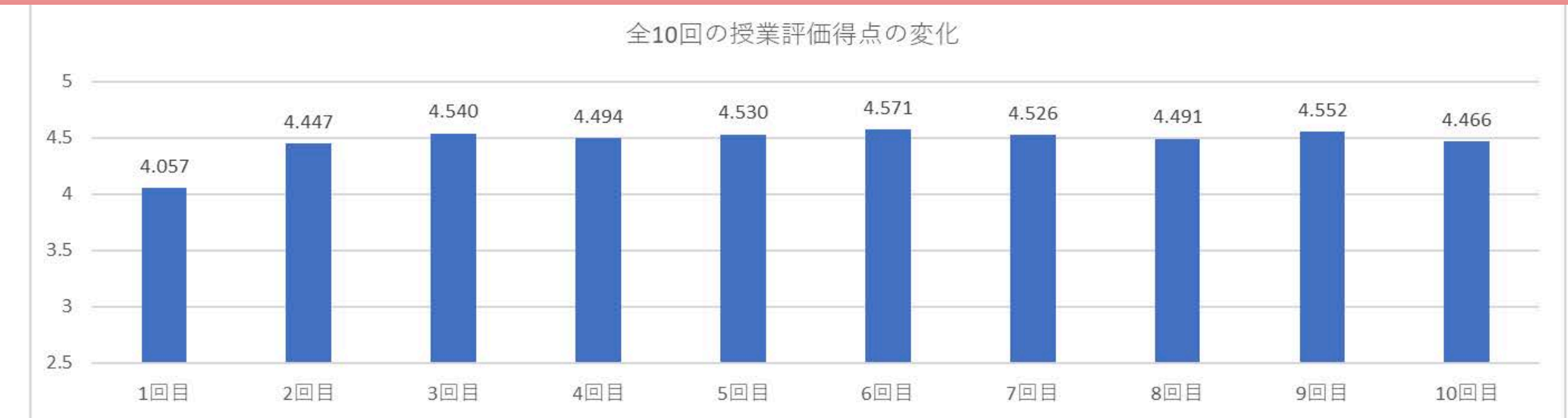
「中学校武道必修へ「型」の考え方を取り入れた授業づくり」 令和2年第53回日本武道学会

中学校武道授業の円滑な導入及び「安全教育」の教材開発に向けて、小学校体育科での武道的な対人運動教材を開発してきた。また中学生への効果的な武道授業や安全意識の形成に向けて、「型」の考え方を取り入れた授業づくりを目指した調査実施。

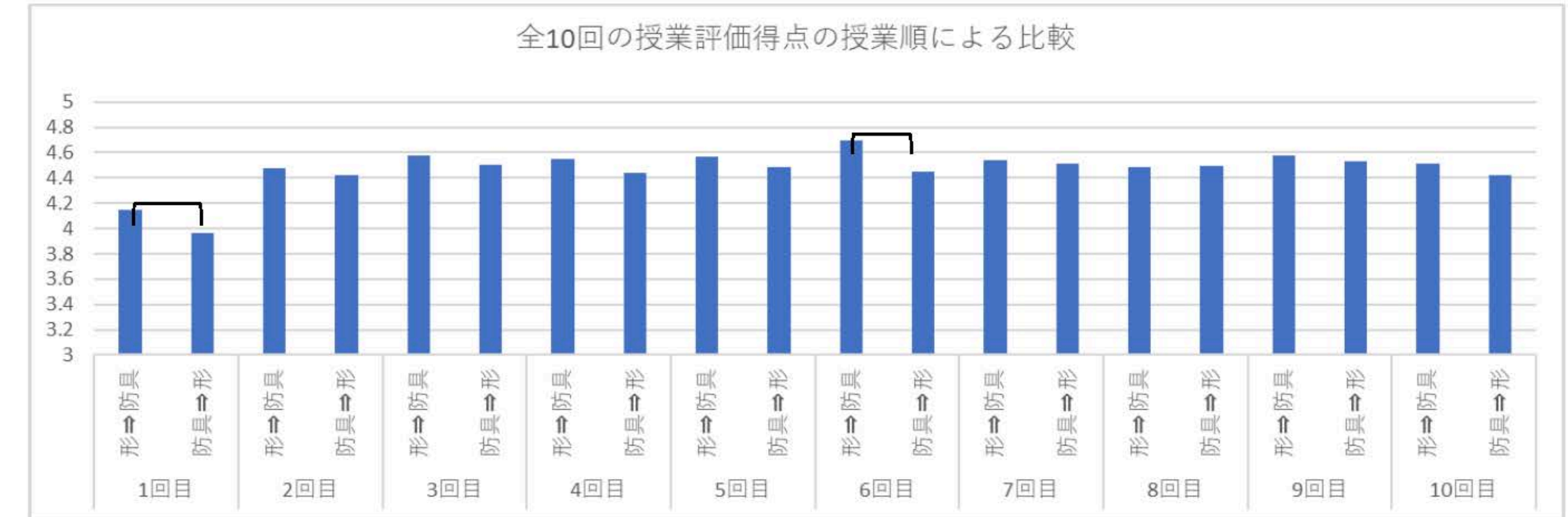
剣道授業経験を有する中学生に未体験の「形」動画を視聴させたところ、**剣道に対するイメージがよくなり、「形」剣道は好き、面白そうであると興味しめす**。また「**形が生徒に伝統を感じさせていること、安全教育の経験は武道への興味関心と連環**」している。ことも示唆。

本研究では、**中学校で「剣道形」を取り入れた授業実践例を報告**するとともに、**授業評価を基に、中学生はどのように「剣道形」を捉えられていたか**、特に学習指導要領改訂に伴う「主体的・対話的な学び」や「安全教育」の視点から、その結果について報告する。

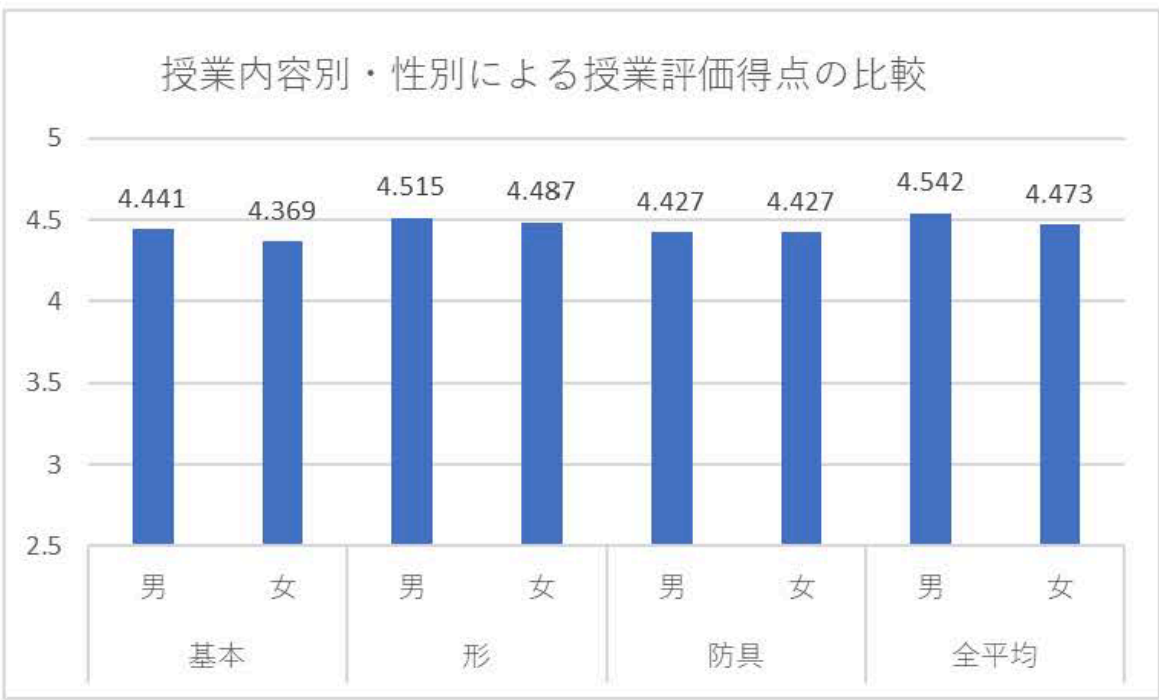
結 果



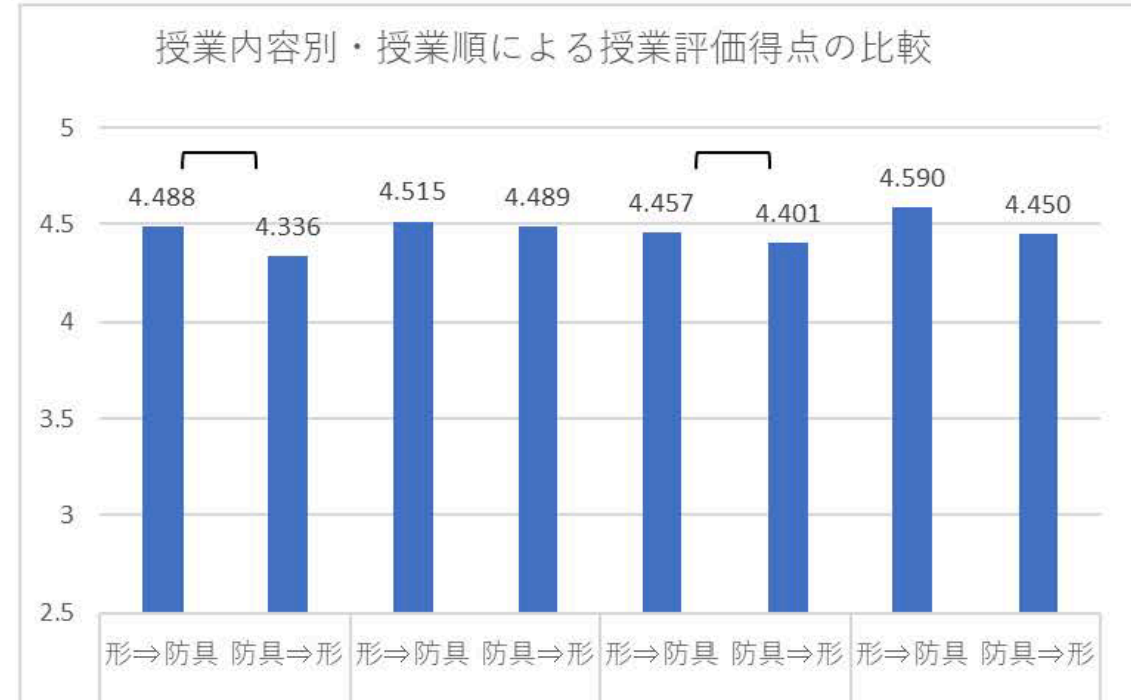
(図1) 全10回の授業評価得点の変化



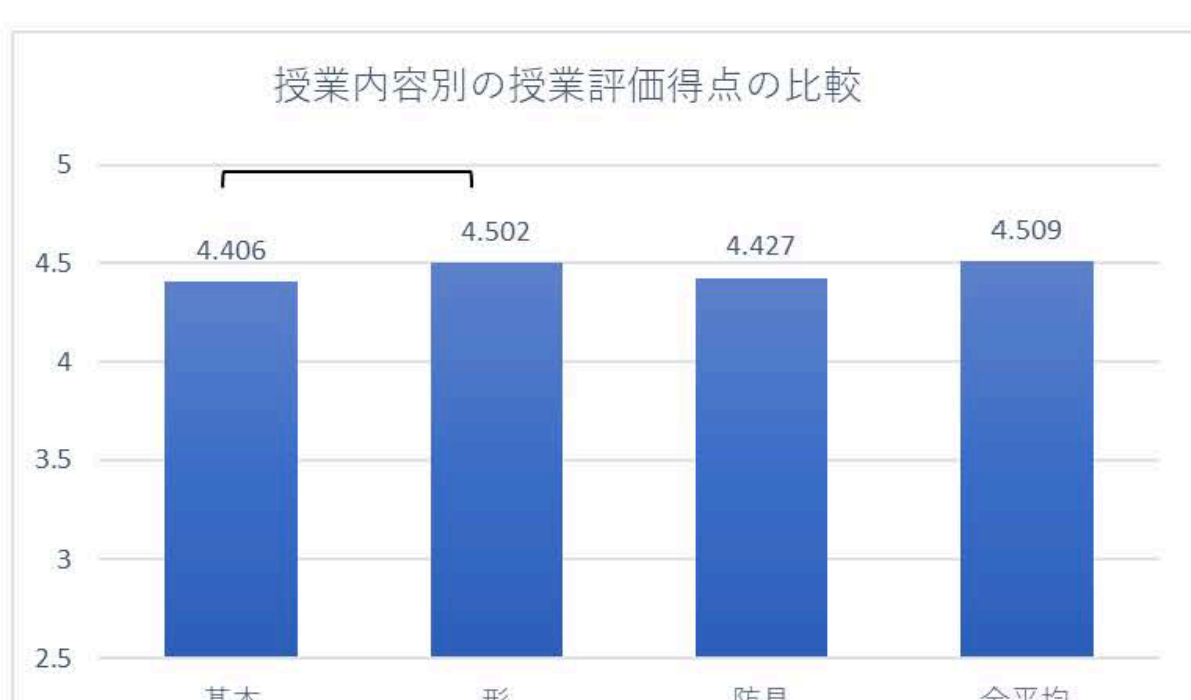
(図2) 全10回の授業評価得点の授業順による比較



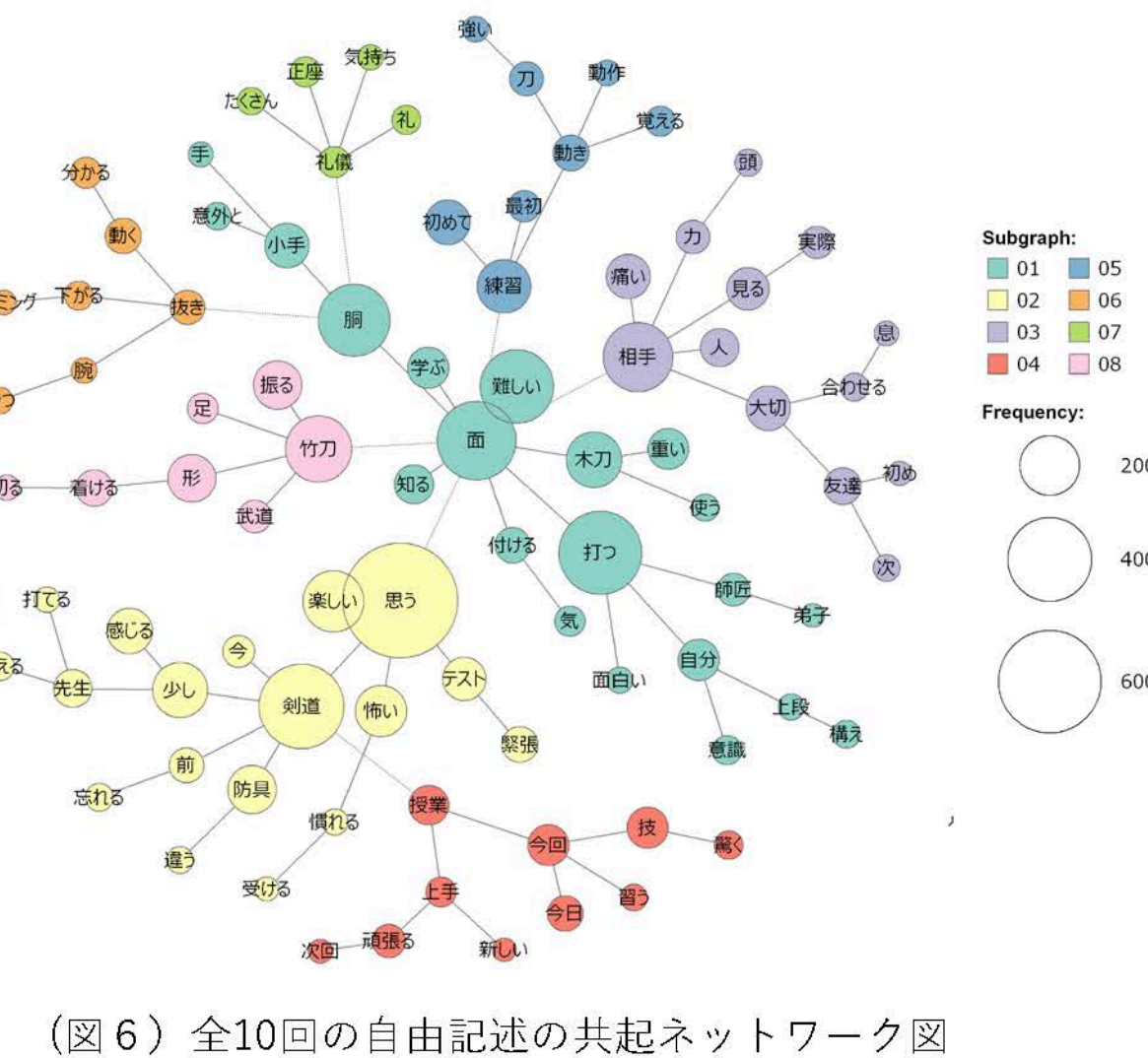
(図3) 授業内容別・性別による授業評価得点の比較



(図4) 授業内容別・授業順による授業評価得点の比較



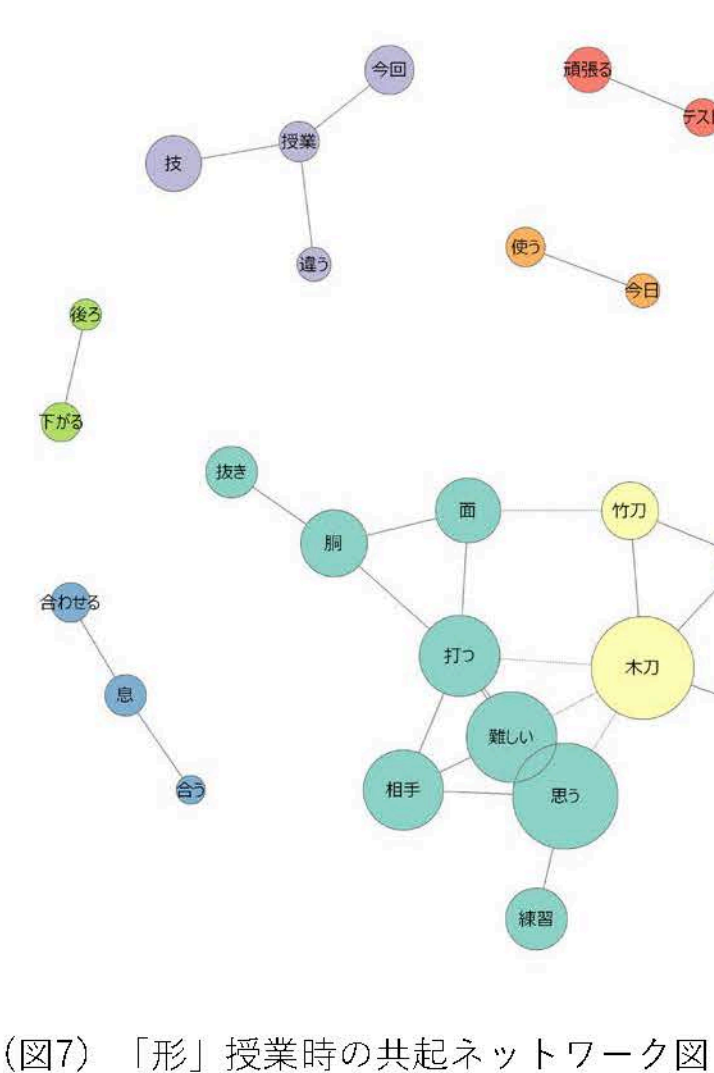
(図5) 授業内容別の授業評価得点の比較



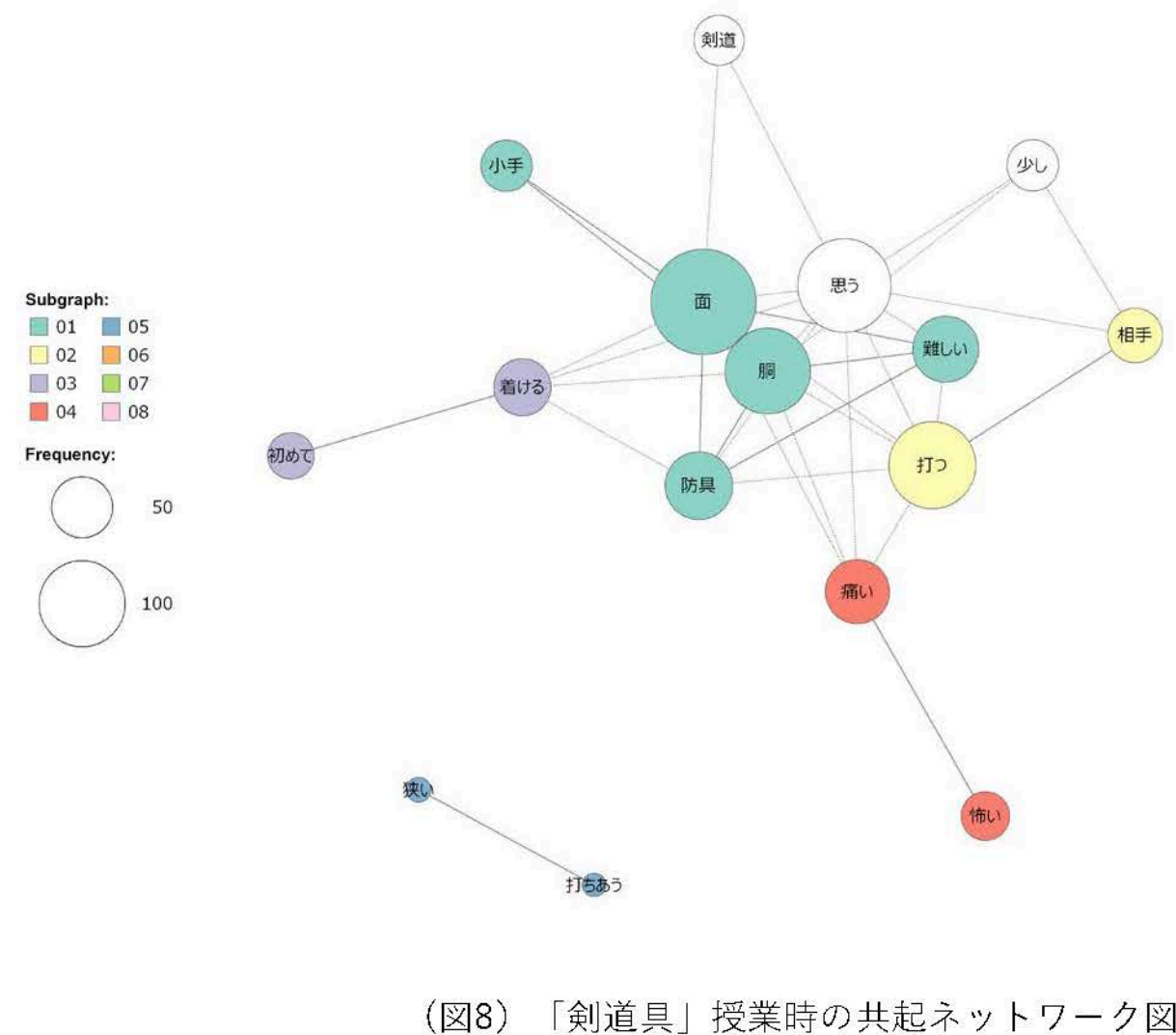
(図6) 全10回の自由記述の共起ネットワーク図

(表1) 全10回の自由記述における抽出語の出現回数

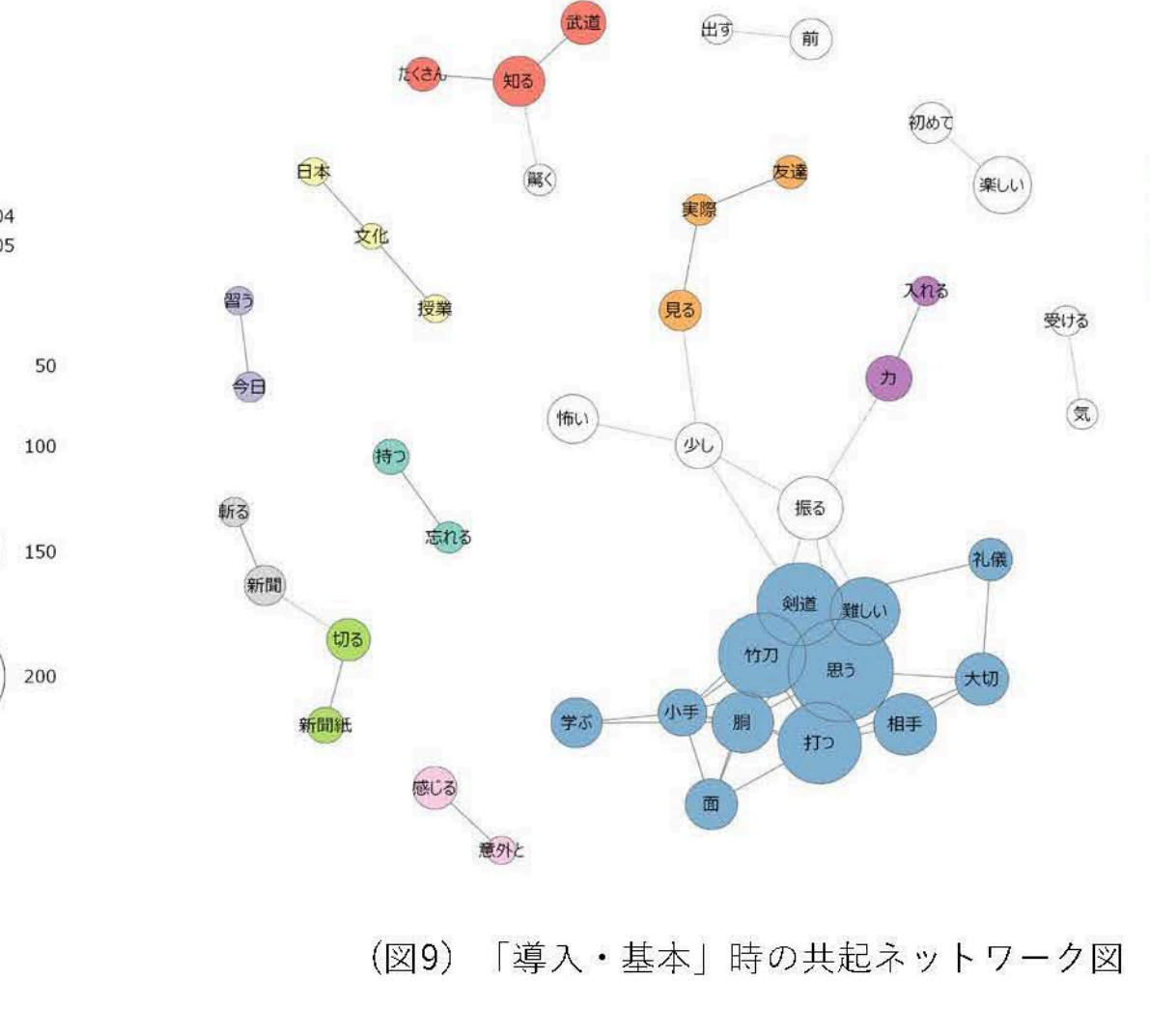
単位	抽出語	出現回数	単位	抽出語	出現回数	単位	抽出語	出現回数
1	思う	753	21	痛い	108	41	抜き	64
2	剣道	409	22	ふた	104	42	力	63
3	打つ	393	23	見る	100	43	力	62
4	足	353	24	手ぶ	95	44	柄巻	60
5	面白い	306	25	足	94	45	脚置	58
6	肩	295	26	今回	94	46	武道	58
7	相手	273	27	自分	93	47	脚置	57
8	竹刀	246	28	肩	91	48	手	55
9	楽しい	212	29	授業	87	49	最初	54
10	木刀	175	30	知る	84	50	礼儀	52
11	礼	172	31	人	81	51	分かる	51
12	練習	162	32	先生	79	52	気	50
13	怖い	146	33	友達	75	53	足	50
14	知る	121	34	刺さる	74	54	受える	49
15	防具	131	35	動き	71	55	正面	49
16	形	128	36	動く	71	56	上手	48
17	感じる	115	37	足場	70	57	足場	47
18	初めて	111	38	今日	70	58	礼	46
19	小手	110	39	怪し	69	59	下がる	45
20	大切	109	40	前	66	60	動く	44



(図7) 「形」授業時の共起ネットワーク図



(図8) 「剣道具」授業時の共起ネットワーク図



(図9) 「導入・基本」時の共起ネットワーク図

考察 および まとめ

「導入・基本動作」3時間、「剣道具」を用いた授業3時間、「形」主体の授業3時間、「まとめ・テスト」1時間という単元構成としたが、5点を満点とする授業評価得点は(図1)の通り、すべての回で4.0以上であり、剣道授業は対象生徒にとって高評価であった。(図2)の通り、第1回目の「剣道具⇒形」組がやや低く、授業が進むにつれ、徐々に評価は高くなっている。これは、授業運営上、クラスにより開始時期がズレたこと、朝一コマ目のため寒さやあわただしさによると考えられる。

武道は女子に不評ではないかと仮説したが、(図3)の通り、性別による差はない。授業内容別にみると(図5)の通り、「基本」と「形」の間に評価得点に有意な差が認められ、他は有意差が無いものの、「形」>「剣道具」>「基本」の順で評価得点が高い。授業順で見ると(図4)の通り、「基本」「剣道具」の授業時に「剣道具⇒形」と「形⇒剣道具」の間に有意な差がみられた。「剣道具⇒形」の「形」と「剣道具」を比べると「剣道具」の評価が低く、「剣道具⇒形」<「形⇒剣道具」よいのではないかと推察される。

KH-Corderによるテキスト分析の結果は、全自由記述(2722文78450字)から1852語の抽出語が18603回出現した。(表1)は出現回数の上位60語をである。これらから作成した共起ネットワーク図(最小出現30、jaccard係数0.3以上)(図6)をみると、「剣道」「楽しい」「怖い」「思う」「防具」がつながり、「打つ」から「面白い」「師匠・弟子」「面」「難し」「練習」へつながり、「相手」「大切」「友達」につながる。「礼儀」「正座」「礼」「気持ち」「抜き」「下がる」「タイミング」が各々まとまっている。

「形」「剣道具」「基本」授業の自由記述をみると、「形」授業(17769字、823抽出語、出現回数4450)「剣道具」授業(19039字、872抽出語、出現回数4858)、「基本」授業(18864字、844抽出語、出現回数4687回)で出現に大きな差はない。「形」「剣道具」「基本」授業の自由記述を共起ネットワーク図(最小出現10、jaccard係数0.3以上とした)(図7)(図8)(図9)から比較すると、「相手」「面」「打つ」「難し」は共に出現するが、「木刀」「上段」「息」「合わせる」「弟子」「師匠」は「形」授業にしかない。「小手」「怖い」「打つ」「痛い」は「剣道具」授業にしかない。「基本」授業では、「剣道」「竹刀」「面」「胴」「小手」「打つ」が集中し、「礼儀」「大切」「初めて」「楽しみ」「日本」「文化」「授業」「新聞」「切る」が各々関連している。

振り返りの回答には「ペアの子と協力して学習することができた」「仲間同士で教え合うのもいいと思う」「友達と教え合いながら学習を進めるのは楽しかった」など**アクティブな学習**、「互いが信頼あってこそできるスポーツと思った」「相手が恐怖心を持っているからそれを和らげてあげることが大切」「剣道は一人ではできない」など**対人関係(道徳性)**への気づき、「間違いという言葉は剣道の間合いが違ったところから由来していること知りました」「間違いという言葉の由来について知れて日本の言葉の由来や昔の人がしてきたことがわかりました」など**言語学習への興味**、「師匠と弟子の関係での役割がわかった」「弟子は師匠の動きに合わせるのは日本の文化というか礼儀なのだろうと思った」「師匠をマネするのは師匠を見て学ぶという事なんだと思いました」など**師弟の関係性**、「日本に伝わる伝統的な文化を受け継いでいきたい」「正座などの日本の昔の文化も知れておもしろかった」など**日本伝統文化への興味**、「形は単純とは言えないけれど練習すればするだけ上手になった自信がうまれるので難しくもなく、中学生の体育に向いていると感じた」「形剣道は動きやすいけれど竹刀剣道は剣道具をつけているため動きにくかった」など**形の評価**、「手拭がずれて少しイライラしたが、それを我慢してこそ武道」「先生の頭をたたくと、なんだかすっきりした気分になりました」など**武道性**について、なかには「つまらん練習ばかりで面白くなかった。最低限試合はしたかった。」などの否定意見もあった。「剣道の授業を通してこれまでよりも相手に敬意を払う思いやりととさの相手の動きに反応できる冷静さも必要になってきます」「武術を習わなくていいくらい、安全な世の中になってほしい」など**安全性**を感じていたようである。

感染症への緊急対応のため、無声の形を取り入れたが、授業担当教員からは「**無声であることが集中力を生み出した**」との評価もあった。また「ペアを変えなかったことも、学びを深めることに関わっていた」との意見もあった。

今回の授業では「形」授業と「剣道具」授業では、両授業とも評価が高く、評価得点に有意な大きな差はないものの、「師と弟子」の関係による学び合い、息を合わせる、など武道で重要な合気の関係や言語の学びなどの記述が、「形」授業時の振り返りに多く、「小手」「怖い」「打つ」「痛い」などは「剣道具」授業が多く、「形」授業に一定の評価を得ることができたと考える。

今後、「基本」「形」から「剣道具」、「基本」「剣道具」から「形」へより連関可能な教材の開発が必要となるであろう。